

「創造力持つ人材育成にも不可欠 阿部伸一氏が特許活用法講義」

全日本科学技術協会主催の「知的財産力」養成・強化プログラムは、3月10日、第3回目の講義として阿部伸一BS国際特許事務所弁理士が、特許公報の読み方など具体的な特許活用法を詳述した。阿部氏は、特許登録された意外な実例を数多く紹介し、特許が持つ多様な効能をわかりやすく伝えるとともに、技術者の独創力を高めるという重要な役割を担っていることも強調した。



阿部伸一BS国際特許事務所弁理士

科学技術基本法を機に大きな変化

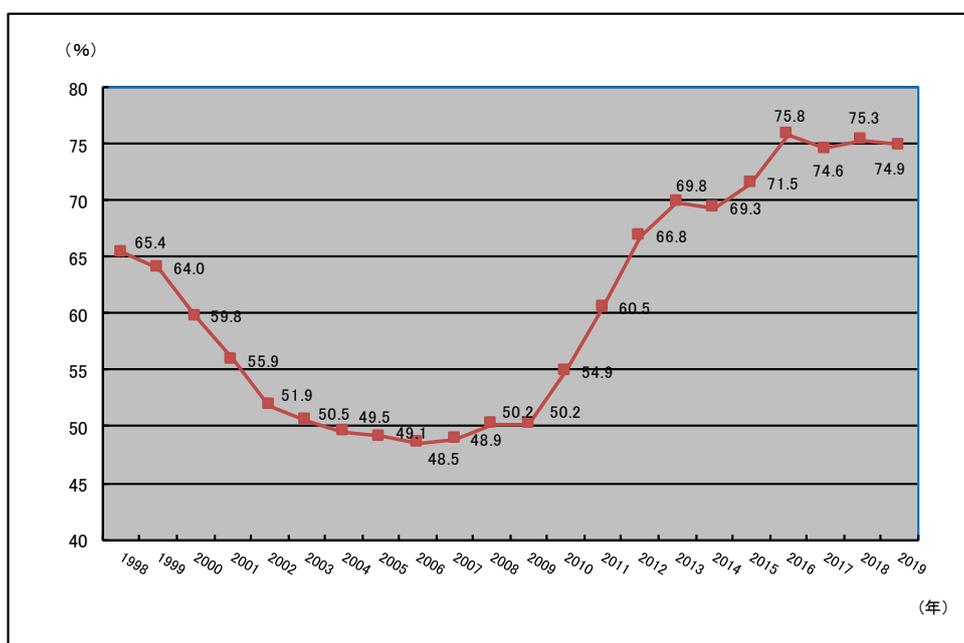
阿部氏はまず、知的財産（知財）の保護強化と戦略的活用が日本で本格化したのは、1995年に科学技術基本法が施行され、科学技術創造立国という目標が明確に示されたのがきっかけであることを紹介した。2002年に知的財産戦略大綱ができ、2003年には知的財産基本法が施行される。その後、知的財産戦略本部を設置され、知財立国という目標が加わった経緯に注意を促した。この間、特許に対する見方が大きく変化した例として氏が紹介したのが、特許査定率の変化。特許査定率というのは、特許申請・出願をしたうち、特許として認められた割合を指す。

科学技術基本法施行から間もない1998年に65.4%あった特許査定率は年々、低下し

続け、知的財産基本法施行の3年後、2006年には48.5%まで下がる。その後、上昇に転じ2016年から2019年には75%前後の横ばい状態が続く。加えて阿部氏が示したのは、特許無効化率に見られる大きな変化。ある特許について、特許権侵害で訴えられている者、類似の特許を持つ者、特許発明と同種の製品を製造する者など利害関係者は、特許の無効を求める無効審判を請求できる。この結果、無効と認められた件数が請求件数に対してどれくらいあったかを示す数字が、特許無効化率だ。

特許査定率の変化

我が国の特許査定率の推移



特許行政年次報告書特許庁
第1章 国内外の出願・登録状況と審査・審判の現状

(阿部伸一氏講義資料から)

特許無効化率は、2001～2005年に52%、2006～2006年に55%に上り、その前の1996～2000年の19%から急が増えている。しかし、2011～2015年には24%に急減し、2016～2019年も同じく24%を維持している。こうした変化を紹介したうえで阿部氏は、「日本の変化は、国内産業を活性化することを狙った知的財産基本法が大きな影響を与えた。」と解説した。

特許無効率の変化

(数値は期間の平均値)

期間	特許		実用新案		特実合計		無効化率		
	請求件数 (件)	申立成立 (件)	請求件数 (件)	申立成立 (件)	請求件数 (件)	申立成立 (件)	特許	実用新案	特実合計
1990～ 1995年	112	27	64	13	176	40	23%	21%	22%
1996～ 2000年	230	42	109	34	339	76	19%	30%	23%
2001～ 2005年	300	153	37	27	336	181	52%	72%	54%
2006～ 2010年	269	149	11	8	280	157	55%	85%	56%
2011～ 2015年	236	57	8	3	244	60	24%	47%	24%
2016～ 2019年	143	34	5	3	148	37	24%	74%	25%

特許行政年次報告書(統計・資料編)(特許庁) 第1章 総括統計

米国での無効審判の傾向

	無効化率
1930～	80%
1950～	60%
1980～	40%

(阿部伸一氏講義資料から)

結婚支援システムも特許に

その後の講義は、一転して実践的な内容となった。次々に紹介されたのが、一般の人間には意外と思われる特許事例。立方体が当たり前の角砂糖の形を1から5までの数字に似た5種類の形に区分けし、重さも1の形をした砂糖のそれぞれ2倍、3倍、4倍、5倍にした「成形砂糖」がその一つだ。一目で重量が分かるので添加量を誤ることがなく、目が不自由な人たちも使いやすいという長所を持つ。

愛媛県法人会連合会の持つ「結婚支援装置および結婚支援方法」という特許もユニークだ。氏名など基本情報を記憶する会員データベースや、特定の相手に対し交際申し込みなどの行動をとった会員とその相手を記憶する行動情報データベースなどを備え、結婚相手に適するとみなされる候補者を抽出し、推薦するという結婚支援を目的としている。ネットで検索すると、「愛結び」というえひめ結婚支援センターのサイトが表示され、実際に広く利用されていることが分かる。

見返り大きい特許公報の読み方

身近な製品の特許を紹介し、特許を認められた理由を問う問題を受講者に与え、答えさせ

る。クイズ形式の講義によって、さらに特許の意外さ、対象の幅広さを十分理解させたうえで、講義は最も重要と思われる特許公報の読み方に移った。特許公報は、登録された特許について権利化された内容が記されている。その中で最も重要といえるのが、「特許請求の範囲」として記述されている個所。「請求項1」「請求項2」というように分けて記述されているのだが、各項の文章は通常、目にすることが多い文章と大きな違いがある。句点はあるものの最後まで読点はない。つまり全体が一つの文章になっており、普通の人間には一読して理解するのは難しいという特徴を持つ。

阿部氏は、さまざまな特許公報を教材として、一つの文章の区切り方のコツを示し、最も重要な記述がどこかを見抜く方法を丁寧に教えた。さらにすでに登録済みの特許を基にして、新たな特許を生み出す例がたくさんあることを紹介し、特許公報を読むことが新たな特許を生み出す有力な方法でもあることを強調した。

まとめとして阿部氏が受講者に強調したのは、知財が持つより重要な役割。「多くの課題がある中で、これは重要で世界の人々が幸せなるはず。そうした技術や製品を生み出す創造力のある技術者たちの能力をさらに高めるのが、特許の重要な役割だ。自分が生み出したものが早く広く世界に普及し、幸せになる人たちを増やす。それが重要な知財活動といえる」と、阿部氏は受講者たちを激励した。

文 木村 徳孝 公益財団法人全日本科学技術協会 事業推進部

関連サイト

全日本科学技術協会 『知的財産力』養成・強化プログラム

[「知的財産力」養成・強化プログラム | トップページ \(jarec.or.jp\)](http://jarec.or.jp)

関連記事

2021年03月08日 「村井啓一讲解知识产权战略：重视形成差异化能力以实现创新」

[村井啓一讲解知识产权战略：重视形成差异化能力以实现创新 - 客观日本 \(keguanjp.com\)](http://keguanjp.com)

2021年03月02日 「科睿唯安发布“全球百强创新机构”榜单：29家日本企业上榜，日美合计占70%」

[科睿唯安发布“全球百强创新机构”榜单：29家日本企业上榜，日美合计占70% - 客观日本 \(keguanjp.com\)](http://keguanjp.com)

2021年01月29日 「日本前专利厅长官荒井寿光：强化发明创造力，知识产权很重要！」

[日本前专利厅长官荒井寿光：强化发明创造力，知识产权很重要！ - 客观日本 \(keguanjp.com\)](http://keguanjp.com)